

4日間で延べ17万9千人の来場者

東京国際消防防災展2018 東京ビッグサイトで開催

東京都港区の東京ビッグサイト東5・6・7ホールと東屋外特設会場に、最新の消防防災システム・機器を一同に集めて紹介した「東京国際消防防災展2018」（主催は東京消防庁、(株)東京ビッグサイト等）が6月3日、閉幕しました。

今回の開催規模は、国内外から出展した236企業・団体が延べ、1,598小間（屋内1,178小間、屋外420小間）。5月31日から4日間の会期中、延べ約17万9千人の来場者がありました。

今回、内発協も前回（2013年10月開催）同様、パネル出展を中心として、自家発電設備に関する製品認証制度、専門技術者の養成制度などの事業活動を広く紹介しました。同じくパネルにて近年に建設されたビルディング等に設置されている「非常用自家発電設備」の事例（4件）と自家発電設備の経年劣化事例を紹介しました。併せて、会員会社から取り寄せた製品パンフレットを展示して、自家発電設備の製造メーカーを紹介しました。

会場では、屋内会場となる東5・6・7ホールを「消火・救急、救助、避難・誘導」、「災害対策」、「情報システム、通信サービス」、「その他、消防防災に関する製品・サービス」の4つのテーマゾーンに分けて、各



内発協のブース

出展者が最新の消防システム・機器について実機展示やパネル展示を交えて紹介し、自社製品のPRを行いました。

また、東京消防庁が屋内・屋外展示場では消防演習、国内外の消防設備の展示などを行いました。